

インターバンクの声（2014年10月2日）

火曜日に発表された米国の S&P ケース・シラー住宅価格指数、CB 消費者信頼感指数などが市場予想を下回る数字を見せたため、昨夜に発表された ADP 雇用統計、ISM 製造業景況指数、建設支出といった指標もその結果が心配された。ADP 雇用統計の結果は予想より少し強めだったものの、その他の指標が予想を大きく下回ってしまった。この弱い経済指標結果も影響したのか、米国債利回りが9月上旬以来の 2.40% レベルまで低下したため、対円を中心としてドル相場全体が軟化した。欧州市場でも火曜日のユーロ圏消費者物価指数に続き昨日も製造業 PMI が14ヵ月ぶりの低水準まで落ち込んだことでユーロ圏国債利回りも低下したため、ユーロもドルの軟化によるアドバンテージを受けるには至らなかった。足元のユーロは、今晚の欧州中央銀行理事会の金融政策次第の部分大きいだが、ドルは今回も米雇用統計の結果が気になるタイミングにぶつかってしまっている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。